

第3回学術総会実施報告

学術総会長	川島由起子（聖マリアンナ医科大学病院）
日 時	平成28年3月12日(土) 13:30～17:00
会 場	相模女子大学
テーマ	病院から地域へ（案）
会 費	正会員 : 1,000円（学生正会員：無料） 非会員・一般 : 1,500円（学生非会員：500円）
参加申込締切	平成28年2月29日（月）

第3回関東・甲信越支部会学術総会は、平成28年3月12日土曜日のやや気温の低い曇り空のなか、「病院から地域へつなげる栄養管理」をテーマに、相模女子大学マーガレットホール4階のガラス張りのガーデンホールで開催しました。

昨年の学術総会の後、支部長より指名を受け、私を含めた神奈川県内の4名の世話人、アドバイザーで計3回（7月、10月、2月）の会議を持ち、当日は教員2名、学生アルバイト6名の協力の下、開催の運びとなりました。参加者は会員36名、非会員14名、学生7名の計57名でした。

総会は石見支部長のご挨拶の後、基調講演として公益財団法人柏市医療公社柏市立介護老人保健施設「はみんぐ」施設長、多田紀夫先生より「地域医療資源連携の中で私たちのできることー 柏市地域栄養相談システムの構築と将来像ー」をご講演いただきました。

柏市で実施されている在宅医療推進のための多職種連携システム構築の経緯について、また、糖尿病疾患管理に栄養食事指導が重要との考えから病診連携を活用した、かかりつけ医で治療を継続しながら、病院栄養士の栄養食事指導を受けるという「柏市地域栄養相談システム」について話されました。このシステムがうまく実施できているのは、「かかりつけ医が栄養食事指導の効果を知っているからです」という言葉が印象的でした。



シンポジウムは、「多職種でつなぐ栄養管理ー藤沢市における挑戦ー」とし、管理栄養士、看護師、歯科衛生士、ケアマネジャーそれぞれ専門的な立場からのご講演をいただきました。在宅医療の推進のために各職種が連携をとりながら実施されていますが、まだまだ多くの問題点もあり、実施する難しさを痛感しました。

基調講演、シンポジウムともフロアから多くの質問があり、熱心な意見交換がなされました。今回の内容が参加された方々にとって、地域包括ケアシステムの構築を考える際に少しでも

も参考になれば幸いです。ご参加いただきました皆さまに御礼申し上げます。



多田紀夫先生

第3回支部会学術総会会長 川島 由起子
(聖マリアンナ医科大学病院 栄養部参与)

第3回 関東・甲信越支部会学術総会

「病院から地域へつなげる栄養管理」に参加して

今回の学術総会は、地域包括ケアシステムの構築について、身近な地域の最新の取り組み事例を通じて学び、このテーマをこれまで以上に身近な問題として捉える機会となりました。

ご講演やシンポジウムを通じては、システム構築の現状を理解するとともに、管理栄養士が地域包括ケアシステムの中で活動するには、経済面や制度上の課題が多いことも理解することができました。しかし、そのような厳しい現状がある一方で、「住み慣れた地域で自分らしく」生きるために日々の食事は大きな役割を果たすこと、在宅復帰促進や、複数施設間、他職種間の連携を図るうえで管理栄養士の専門性への期待が大きいことを実感しました。また、様々な職種の先生方のご講演を通じ、管理栄養士に求められている専門性として、アセスメントや他職種連携によって把握した種々の情報を“一人ひとりに適した食事”として具体化できることが重要とあらためて感じました。

私は大学で管理栄養士養成に従事しています。今回の学術総会を経て、今後の学生教育にあたり、地域、行政、病院、介護施設、家庭等、生活者を取り巻く環境を幅広く捉える視点を持ち、様々な場面で専門性を発揮できる実践力を備えた管理栄養士の育成が課題だと強く感じています。今回のご講演を通じ、学生教育や研究活動につながる新たな気づきや課題を数多く得ることができました。貴重なご講演いただき、講師の先生方に心より感謝申し上げます。

相模女子大学 栄養科学部管理栄養学科

縄田敬子

「病院から地域へつなげる栄養管理」をテーマに行われた第3回 関東・甲信越支部会学術総会に参加いたしました。

はみんぐ施設長の多田先生のご講演では、地域包括ケアの推進において、医療・看護・介護等の関係団体、他職種が顔を見せ合い、関係作りをしながら議論を重ねて進めること、点ではなく面として事業を展開していくことが特に重要であると感じました。また、地域栄養相談室の取り組みでは、管理栄養士が常駐していない医療機関であっても、食事療法が必要な患者さんへの個別アドバイス提供が可能になるシステムづくりについて、貴重なお話を伺うことができました。

シンポジウムでの各先生方の講演では、地域包括ケアシステムの実現には、地域で栄養管理を行う管理栄養士がこれまで以上に求められていることを再認識した一方で、算定の問題などで活躍できる体制が十分ではないことを痛感しました。

私が所属するヘルスプロモーション研究センターでは、診療所や病院におけるヘルスプロモーション活動の推進を目指した予防医療活動や、自治体と協働した健康づくり・介護予防事業に取り組んでいます。医療機関での活動と、地域での活動を進める上で今後目指すことは、医療と保健・介護の連携であり、本総会のテーマである「病院から地域へつなげる栄養管理」をどのように進めるかが大きな課題の一つです。今回話を聞く中で、他の専門職と連携するにあたり、まずは関わる専門職同士が共通の問題意識をもつことが重要であり、そのために現状分析を行い課題や問題点を抽出し、提示していくことの必要性を感じました。また、管理栄養士をはじめ各専門職が果たせる役割、連携することで生まれる効果などを互いに共有しあうことも、協働する上で重要であると実感いたしました。

今後、柏市のようなモデル地区の取り組みを参考にしながら、それらを自らの地域特性にあった形で実現できるよう、そして、病院だけ、地域だけに留まらない継ぎ目のない栄養管理の提供が可能となるよう活動を進めて参ります。最後に、本総会の企画をしてくださった川島由起子先生、ご講演いただいた先生方に改めて感謝申し上げます。

公益社団法人地域医療振興協会
ヘルスプロモーション研究センター 吉葉かおり